

## 他者との相互作用を重視したキャリア教育科目 のデザインのための相互評価学習の試行

### Trial of Peer Assessment Learning for Career Education Course with an Emphasis on Interaction between Learners

桑原 千幸\*

Chiyuki KUWAHARA\*

\*京都文教短期大学

\*Kyoto Bunkyo Junior College

Email: ckuwahara@po.kbu.ac.jp

**あらまし**：短期大学の初年次キャリア教育科目において、他者との相互作用を重視したキャリア教育科目をデザインするために、Moodle を用いて 2 種類の相互評価学習を試行した。実践後の受講生のアンケート調査から、匿名の課題を相互評価する群（匿名群）よりも氏名を表示した課題に対して相互評価を行う群（実名群）のほうが、他者から評価を受けることについてやりがいを感じていることがわかった。自分とは異なる他者の考えを知ることの意義や楽しさに関しては、匿名群、実名群ともに肯定的であった。相互評価学習システムについては、匿名群のほうが使いやすいと回答した。評価対象者の実名/匿名については、実名群のほうがどちらでもよいと答えた割合が多かった。

**キーワード**：キャリア教育、相互評価学習、Moodle、ARCS モデル、デザイン研究

#### 1. はじめに

キャリア教育の目的の一つは、他者との相互作用の中で自己理解を深め、主体的なキャリア形成能力を育成することである。筆者はこれまで、短期大学初年次にキャリア意識と進路選択自己効力を高めることを目的として、進路選択課題に関わる相互評価学習を中心とした授業を設計し、Moodle を活用した相互評価学習が進路選択自己効力の向上に有効であることを明らかにした<sup>(1)</sup>。しかしながら、相互評価学習の実施は全体のうちの一部の回のみであり、授業全体を通じて活発な相互コメントを促すコミュニティづくりや足場かけの検討が必要であることが分かった。また、多様な学生が受講する非同期 e ラーニング形式の科目において同様の実践を行ったところ、授業全体を通じた相互コメント学習により、他者を評価することが自らの学びやキャリア意識の向上に役立ったという意見が得られた<sup>(2)</sup>。

そこで本研究では、既存の相互評価学習実践モデルを発展させ、他者との相互作用をさらに重視したキャリア教育科目をデザインするために、Moodle を用いて 2 種類の相互評価学習を試行し、実践後の受講生のアンケート調査をもとに、相互評価学習方法と相互評価学習システムについて検討する。

#### 2. 方法

##### 2.1 対象

私立短期大学において、2018 年度前期に 1 年次選択科目として開講されたキャリア教育科目「キャリア形成論」2 クラスの受講者 75 名を対象とした。2 クラスともに、家政系学科、栄養士養成、幼児教育、の 3 つの専門分野の学生が混在したクラスである。

##### 2.2 授業設計と相互評価学習方法の概要

短期大学初年次にキャリア意識と進路選択自己効力を高めることを目的として、キャリアプラン作成という進路選択課題を中心とした授業を設計した。第 1 回～10 回は、キャリアプラン作成に必要な社会状況についての知識習得や自己理解を目的とした講義・演習を行い、第 11 回～15 回でキャリアプラン作成・発表とそれに関わる相互評価学習を行う。

第 1 回～10 回のうちの 2 回の講義について、授業の最後のリフレクション課題を LMS に提出し、次の授業で他の学習者の課題を閲覧・評価する相互評価学習を行った。課題提出、相互評価学習には Moodle を用いた。2 クラスのうち、一方はデータベースモジュールに匿名で課題を提出し、匿名での相互評価を行った。もう一つのクラスは、フォーラムモジュールに各人が氏名を表示して 1 件のディスカッションとして課題を提出し、投稿内容を匿名で相互評価した。以下、本稿では前者を匿名群、後者を実名群と表記する。評価の対象は、両群とも「お互い様効果」を考慮せず、教員が一人あたり 5～7 件をランダムに割り当てた。評価尺度については、両群ともに「いいね」「なるほど」「読んだよ」の 3 段階でコンボボックスから選択する方法を採った。相互評価学習方法の違いを表 1 に示す。

表 1 相互評価学習方法の比較

	匿名群 (N=36)	実名群 (N=39)
Moodle モジュール	データベース	フォーラム
投稿者氏名	匿名	実名
評価者氏名	匿名	匿名

表 2 相互評価学習に対する動機づけ (\*  $p < .05$ )

質問項目	匿名群 (N=33)	実名群 (N=38)	t検定
他の学生の 意見を読むこと	面白かった (A)	4.30 (0.81)	4.50 (0.65)
	やりがいがあった (R)	4.00 (0.61)	4.11 (0.56)
	自分の考えに影響を与えた (R)	4.33 (0.92)	4.13 (0.93)
	相手のためになる評価ができた (C)	4.06 (0.79)	4.00 (0.57)
	やってよかった (S)	4.33 (0.78)	4.32 (0.62)
	今後もやってみたい (S)	3.91 (0.95)	3.89 (0.86)
他の学生から 評価されること	面白かった	4.18 (0.73)	4.18 (0.65)
	やりがいがあった	3.94 (0.61)	4.24 (0.54) *
	自分の課題の内容に影響を与えた (R)	3.97 (0.98)	3.84 (0.79)
	自分ができたことを認めてもらった (C)	4.03 (0.85)	3.87 (0.74)
	やってよかった (S)	4.21 (0.74)	4.16 (0.72)
	今後もやってみたい (S)	3.82 (0.92)	3.74 (0.72)

### 2.3 調査方法

2回の相互評価学習終了後に Google フォームで調査を行った。有効回答数は匿名群 33 件、実名群 38 件の計 71 件であった。相互評価学習に対する動機づけの把握を目的として、ARCS モデル<sup>(3)</sup>を参考に 12 項目 (5 件法) を作成し、各項目について、「まったくそう思わない」を 1 点、「そう思う」を 5 点として得点化した。また、評価対象となる課題の投稿者氏名表示/非表示の好み、システムの使いやすさ (5 件法)、相互評価学習方法およびシステムについての任意の自由記述についても同時に回答を求めた。

## 3. 結果

### 3.1 相互評価学習課題に対する動機づけについて

相互評価学習における、他の学生の意見を読むこと、他の学生から評価されることに対する動機づけに関する質問項目について、各群の回答平均値 (標準偏差) を算出し、対応なしの  $t$  検定を行った結果を表 2 に示す。「他の学生から意見を評価されることはやりがいがあった」という設問のみ、実名群のほうが優位に高かった ( $t(69)=-2.177, p<.05$ )。

また、自由記述からは、匿名群、実名群ともに、自分とは異なる他者の考えを知ることの意義や楽しさに関する意見が多数得られた。

### 3.2 システムの使いやすさ

システムの使いやすさについて 5 段階で評価した結果の平均値は、匿名群が 3.91 ( $SD 0.15$ )、実名群が 3.34 ( $SD 0.21$ ) であり、 $t$  検定を行ったところ、データベースモジュールを利用した匿名群の方が優位に高かった ( $t(64.574)=2.231, p<.05$ )。

### 3.3 評価の実名/匿名について

相互評価学習の実施において、評価対象となる課題の投稿者氏名の表示/非表示についての好みを尋ねた結果を表 3 に示す。匿名群/実名群によって好みに差があるかを検討するため、期待度数が少ない「氏名を表示」の列を除外して、カイ 2 乗検定を行

ったところ有意差が認められた ( $\chi^2(2)=15.178, p<.01$ )。残差分析から、実名群のほうが匿名群よりも「どちらでもよい」と回答した割合が多かったことが明らかになった。

表 3 投稿者氏名の表示についてのクロス集計

クラス	匿名	氏名を表示	どちらでもよい
匿名群	27	0	6
実名群	14	3	21

## 4. まとめ

他者との相互作用を重視したキャリア教育科目をデザインするために、Moodle を用いて課題提出が匿名/実名の 2 種類の相互評価学習を実践した結果、以下のことが明らかになった。

- 実名群のほうが、他の学生から評価を受けることにやりがいを感じている。
- Moodle のフォーラムモジュールよりも、データベースモジュールを使った群のほうが、システムの使いやすさについて肯定的である。
- 評価対象者の氏名表示について、実名を望むものは両群ともに少ないが、実名群のほうがどちらでもよいと答えた割合が多い。

今後は、相互評価学習方法と進路選択自己効力の変化との関連を調査し、他者との相互作用を重視したキャリア教育科目のデザインを検討していきたい。

### 参考文献

- (1) 桑原千幸, 喜多敏博, 合田美子, 根本淳子, 鈴木克明: “初年次キャリア教育科目における相互評価学習の実践と進路選択自己効力の向上”, 日本教育工学会論文誌, 第 38 巻, 第 2 号, pp.79-89 (2014)
- (2) 桑原千幸, 喜多敏博, 合田美子, 鈴木克明: “非同期 e ラーニングキャリア教育科目における相互評価学習の実践と進路選択自己効力の変化”, 教育システム情報学会誌, 34(3), pp.238-250 (2017)
- (3) 鈴木克明: “『魅力ある教材』設計・開発の枠組みについて—ARCS 動機づけモデルを中心に—”, 教育メディア研究, Vol. 1, No. 1, pp. 50-61 (1995)